

十 創 号 刊

今月の十人 + 1

ただのたなか
きんかく
浅野朝
智花
彩結ゆあ
武井窓花
森屋たもん
雨
全美
深山睦美
吉田岬

編集発行人 吉田岬

二〇二四/十二/十 発行

融解犯 ただのたなか

どこからか奏が聞こえタイトルを思い出せずにただリフレインス水彩の絵の具のような感情は雨が降ればきつと忘れる
性善説で保つ世界で僕だけがマフラーをせず駅へと向かい
磔刑のごとブランコは隔離され児らの温度はもう届かず
唇から忘れかけてた血の味と缶に落とした灰の死ぬ音
布団に愛されすぎる夜なので明日はきつと体調が悪い
胎児のごと様変わりすコンビニをガラスの外から
脱ぎ捨てた三百円の靴下は口を開けただ恋しと叫び
徐々に葉を落とし立つ木は描かれることを待ちたる裸婦のごとく
一粒の砂から作らる日常に情景がまた融解せり

自他境界線 きんかく

save our souls これは涙だと思ってしまうほどの春風
綿を足すように左手から愛を足したんだってことにしている
（白骨化した頃だろう、支払いが完了していませんかの通知は）
人間の声はバイオリンに似て音を出すにも才能がいる
限界の色として赤レシートのような気持ちで履いた靴下
思いやり都市宣言の垂れ幕が夏の光を塞ぐ市民課
季節にも種類があつて木枯らしは最悪の場合死に至ります
粉々の督促状がいつまでも俺の名前を守ろうとする
半券は半券だから美しい だから右手よ泣かないでくれ
生きてればいい事あるよは嘘だけど、好きな部類の嘘ではあるか

横に長い 浅野朝

シンドロームシンドローム 宇宙を口に含んだらなんか眠いね
バカでかい声で「ザ・ワールド！」「ザ・ワールド！」「ザ・ワールド！」おいおいまじか
BeRealはいつも命令形 Please BeRealなら使ってたのに
「Hey Siriiで始まる恋」のステッカー キュービッドは無邪気だから遊んじやう
採血終わりのめまい 腹いせにインフルエンザをfluって略そうよ
Wow!シグナルを繰り返すTwinkle Twinkle Twinkle Night 星みたい
眠たいね。そろそろ終わりにしようか。それじゃあまたね ended call

あなたとわたし 智花

わたしたち大人になった チコちゃんに叱って欲しいくらいに大人
キーケースじゃらじゃらさせてほんとうに大事な鍵はどこにやったの
もしもって橋の向こうを見に行つたわたしがいまも戻って来ない
もしもこの手を放したら人生を半分損するような気がする
栗の木の下で泣きつづけるあなた なぐさめかたを知らないわたし

雪が降っても大丈夫 彩結ゆあ

冬生まれ雪がつく名のゆを書いて私が生きる道をあらわす
色づきゆくみかん羨ましいと泣くわたしのほうがドキュメンタリー
流れ着く場所が決まっているのならおぼれていても私は私
嫌なことたくさんあるね寒さくらい喜びながら暮らしてみたい
年末に襲われそうと焦るなよこんなに日々はふつうにあった
丁寧になんぞ登るエレベーター止まる階のないビルがきれい
つめをきる私が私のことちゃんと好きでいること唯一わかる
おかえりと言うときの顔ポツプツ体イエローグラデA4はみだす
最後だと思えば想いを込められる唇がゆれる師走のように
生きてよを食べきれないふり飽きたから食べログ評価5にしてまたね

薄情者 武井窓花

理不尽は好きだけ笑って暮らせただし宝石に触れぬように
フアインダー越しのだれもが恥ずかしい罪をおかしたわけでもないのに
スプレーの缶が溜まってゆく余白本音を言うひとがいなくなる
まひるまに手のひらサイズの訃報あり薄情者はわたしであった
夏の床冬の絨毯春の雪 秋の諦めをあいしています
こんなにもかわいいものもあっていいのわたしこんなに こんなになのに
電池切れのiQOSならたくさんあるしお世辞は嫌い 少しはさみしい
走るのはずっと遅くていつまでも今年最後に散る花になる
電球のあかりのぬくさ車窓より知らぬ家の間取りを考える
目と鼻と口の配置次第ですねルールに沿って歩道を歩く

復活 森屋たもん

「距離感がおかしい」という慣用句を聞いたび思い出すあのトラック
目が覚めたら目が覚めたただけで天井は市民病院小児病棟
骸骨の中がじんじん痛んでる骸骨が脳みを押し寄せ
点滴を刺してトイレに行くことに慣れてきたから退院できた
ストーブが新しいのに変わっててストーブはこういう時に買うもの
入院の前に出された宿題を先生に出すタイミングいつ？
体育をしばらく休む保健室から見る校庭に遠近法
右折待ち列の先端生き延びた人から入るらばーと柏
誕生日は死の特異日でできるだけ死ないようにミスドに並ぶ

かみさまだいて 雨

子宮とは？女代表選手権。ドレスコードはパートナー
煙草吸うウオールフラワーの陽炎よ正装した卵巣と精巣
卵巣がエスコートする排卵期（High rank day）凍結された卵子たちの匂
ゴールする一番しかライト当たらんしonly oneは精子には笑止
home無き精子集まる焼却炉おたまじゃくしは雌雄同体
性別を選ぶ欄のその他からその他の欄外の人とその他婚
凹凸、見目カタチ、性別、性別、性別、人間、
雄犯す濁った雌の集合体雄は子を宿し雌は街で白む空
人間の卵をベنگンが温めて乳飲子の乳は牛か父から
シッターはロボットに任せ子宮 海に返したらかみさま抱いて

白紙で生まれる無限大 全美

デイズニープリンセスの夢破れてコンパースの靴紐締める
ブレイリスト一曲目が決まらずにアイスクリーム溶けはじめてく
履歴書を作るアプリを入手するこれから生まれる白紙の私
今月のカレンダーに丸をする姉の誕生日だけの12月
転居届、郵便番号など知らず無限大の数字が未来
迂回路の先にあるコンビニの光ほど眩しくはなかった半生
昭和から西暦に変換する令和生まれはまだ6歳、いいね
シクラメン、ポインセチアは明るくて今年も買わずに真っ直ぐ帰る
「青空が珍しくなる季節だね」書き出しだけで続きはまたない
セーターはクリーニングの薄い袋に包まれたままで知る冬
各停の電車は午後の陽でぬるく産道となりやがて生まれる

夢の色 深山睦美

サメ映画監督「あの女を狙え」 サメ「はい」 夢に色なんて無い
チルノのバーフェクトさんすう教室を流してほしい手術のときに
炎の中に思い出が蘇るほどこの世の中に思い出が無い
やり過ぐす人体模型のふりをして先生をママと呼んじやったとき
何らかの付度がありメニューから消えた政権交代バーガー
おみくじに立ち喰いグミ専門店を建てるべしと言われたが、建てない
待ち合わせしていた人が待ち合わせ相手に遭えた時用のグミ
ハロウィンでなぜ軽トラを倒すのかもわからない二千百年
四千二百四十二年の語呂合わせ他に良いのが思いつかない
いつかせかいはべかに変わってしまうからねむれるうちにどうかねむって

雪国 吉田岬

多年草ひと冬ごとに絶やされて雪原は声もなく横たわる
行きは救急帰りは霊柩車となって少年と猫を運ぶタクシー
除雪車が跳ね上げていく雪の壁すべて家々を鎖国させる
初七日の四十九日の美しい響きを持って耳を訪ねる
触れたなら寒さに触れねば焼け雪にいつか人魚はすべて滅べり
冬に滅べしすべてのものが胸の中で冬を滅ぼすため舞い踊る
救急車をいつでも呼べるよう雪は毎日かきなさいと言う医者
いつもより無口で長い飼い主に頑張れと叫び続けるインコ
雪のごと跡形もなく去りたきに窓開け放ったわんだ夜に
雪染める茜の上をエゾシカが山のあなたへ踏み越えてゆく